



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 アキレス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5142 URL https://www.achilles.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日景 一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門統轄補佐兼 (氏名) 河野 和晃 (TEL) 03-5338-8238
 経理本部長
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	63,050	12.9	△49	—	409	△71.7	78	△91.1
2022年3月期第3四半期	55,838	—	1,019	—	1,447	—	882	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 2,115百万円(81.0%) 2022年3月期第3四半期 1,168百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	5.06	—
2022年3月期第3四半期	56.21	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しているため、2022年3月期の各数値の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	89,286	48,627	54.5	3,198.02
2022年3月期	80,123	47,728	59.6	3,049.81

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 48,627百万円 2022年3月期 47,728百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	83,000	9.3	△1,500	—	△900	—	△700	—	△45.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	15,862,714株	2022年3月期	15,862,714株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	657,111株	2022年3月期	213,100株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	15,475,034株	2022年3月期3Q	15,707,823株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、各国のウィズコロナ政策により正常化に向かいましたが、ウクライナ情勢等の長期化によるエネルギー・原材料価格の高騰や世界的なインフレ進行などの影響により、景気の減速が懸念されました。

日本経済も、経済社会活動の正常化に伴う回復が見られたものの、エネルギー・原材料価格の上昇や為替相場の急激な変動など、先行き不透明な状況が継続しました。

このような事業環境のもと、当社グループは企業価値の増大を目指して、お客様が求める商品・ブランド力のある商品創りに注力してまいりました。具体的には感染症対策製品、省エネルギー関連製品、環境対応製品、防災関連製品、生活関連製品、インフラ整備関連製品などの重点分野、およびグローバル化へ積極的な事業展開を推進するとともに、継続してコストダウンおよび省エネルギー・廃棄物の削減に取り組んでまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、価格改定の効果もあり、売上高63,050百万円（前年同四半期比12.9%増）となりました。

営業利益は、エネルギー・原材料価格や物流費の上昇、円安の影響等への対応として、一層のコストダウン活動や価格改定を推進しましたが、コスト上昇分を補うには至らず49百万円の営業損失（前年同四半期は1,019百万円の営業利益）となりました。

経常利益は、前年同四半期に比べ1,038百万円減少し、409百万円（前年同四半期比71.7%減）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同四半期に比べ804百万円減少し、78百万円（前年同四半期比91.1%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

当社は主に企業向けの中間財と最終消費者向けの消費財を製造、販売しております。消費財がもつ当社のブランド力を中間財の拡販に有効活用していくためにも、今後、消費財への注力は重要との観点から、消費財・中間財に区分して記載しております。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。詳細は10ページ（セグメント情報等）に記載の通りであります。

<シューズ事業>

【消費財】

主力であるジュニアスポーツシューズ「瞬足」、世界有数のランニングシューズブランド「BROOKS（ブルックス）」が好調に推移しましたが、全体としては前年並みの売上となりました。

シューズ事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は8,403百万円と前年同四半期に比べ95百万円の増収（前年同四半期比1.1%増）となりました。

セグメント損失は、販売が堅調に推移する中で、販売費の削減効果もありましたが、円安による仕入コストの増加により723百万円（前年同四半期は494百万円のセグメント損失）となりました。

<プラスチック事業>

【中間財】

車輦内装用資材は、半導体不足等による自動車メーカーの生産調整が世界的に改善し、好調に推移しました。

化成品は、中国でのロックダウンや欧州エネルギー事情などの影響により、国内外でエレクトロニクス用、エクステリア用フィルムが苦戦しましたが、北米での医療用フィルムは大きく伸ばしました。

建装資材は、床材・壁材がともに好調に推移しました。

価格改定の効果も含めた中間財の売上高は30,364百万円と前年同四半期に比べ5,426百万円の増収（前年同四半期比21.8%増）となりました。

【消費財】

防災対策商品は、国内では苦戦しましたが、米国向けゴムボートは好調に推移しました。

価格改定の効果も含めた消費財の売上高は2,052百万円と前年同四半期に比べ362百万円の増収（前年同四半期比21.4%増）となりました。

プラスチック事業全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は32,416百万円と前年同四半期に比べ5,789百万円の増収（前年同四半期比21.7%増）となりました。

セグメント利益は、販売が好調に推移したことによる利益の増加はありましたが、価格改定期期の遅れ等により、エネルギー・原材料価格や物流費上昇のコスト増を補うことができず、前年同四半期に比べ201百万円減少の1,860百万円（前年同四半期比9.8%減）となりました。

<産業資材事業>

【中間財】

ウレタンは、車輛用が回復しましたが、寝具用は苦戦しました。

断熱資材は、ボード製品、パネル製品、スチレン製品ともに低調に推移しました。

工業資材は、半導体分野向けウエハー搬送用部材が国内、海外向けともに好調に推移しました。

価格改定の効果も含めた中間財の売上高は21,601百万円と前年同四半期に比べ1,250百万円の増収（前年同四半期比6.1%増）となりました。

産業資材事業全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は22,230百万円と前年同四半期に比べ1,327百万円の増収（前年同四半期比6.3%増）となりました。

セグメント利益は、販売が苦戦したことに加え、価格改定期期の遅れ等により、エネルギー・原材料価格や物流費上昇のコスト増を補うことができず、前年同四半期に比べ477百万円減少の764百万円（前年同四半期比38.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産は89,286百万円で前連結会計年度末に比較して9,163百万円増加しました。

資産の部では、流動資産は51,354百万円となり前連結会計年度末に比較して6,925百万円増加しました。これは主に、商品及び製品が2,509百万円、原材料及び貯蔵品が1,450百万円、電子記録債権が1,318百万円、売掛金が924百万円増加したことによります。固定資産は37,931百万円となり前連結会計年度末に比較して2,237百万円増加しました。これは主に、有形固定資産が2,134百万円増加したことによります。

負債の部では、流動負債は28,011百万円となり前連結会計年度末に比較して3,604百万円増加しました。これは主に、未払法人税等が275百万円、未払金が234百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が2,877百万円、短期借入金が700百万円、電子記録債務が609百万円増加したことによります。固定負債は12,647百万円となり前連結会計年度末に比較して4,658百万円増加しました。これは主に、長期借入金4,500百万円増加したことによります。

純資産の部は48,627百万円となり、前連結会計年度末に比較して899百万円増加しました。これは主に、自己株式の取得により589百万円、利益剰余金が547百万円減少しましたが、為替換算調整勘定が2,414百万円増加したことによります。以上の結果、自己資本比率は54.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、2022年11月11日に公表いたしました業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（2023年2月10日）公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,590	7,329
受取手形	3,454	3,435
電子記録債権	4,591	5,909
売掛金	13,864	14,788
商品及び製品	9,271	11,781
仕掛品	1,690	2,083
原材料及び貯蔵品	2,530	3,980
その他	1,485	2,070
貸倒引当金	△50	△23
流動資産合計	44,428	51,354
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,536	12,144
機械装置及び運搬具(純額)	5,655	8,131
土地	4,157	4,172
建設仮勘定	2,680	1,628
その他(純額)	1,468	1,556
有形固定資産合計	25,499	27,633
無形固定資産		
	400	453
投資その他の資産		
投資有価証券	2,863	2,949
退職給付に係る資産	4,908	4,738
繰延税金資産	1,290	1,435
その他	784	773
貸倒引当金	△51	△52
投資その他の資産合計	9,795	9,845
固定資産合計	35,694	37,931
資産合計	80,123	89,286

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,551	15,428
電子記録債務	2,902	3,511
短期借入金	2,200	2,900
未払金	2,387	2,153
未払法人税等	405	130
資産除去債務	33	-
その他	3,926	3,887
流動負債合計	24,406	28,011
固定負債		
長期借入金	3,000	7,500
繰延税金負債	448	518
退職給付に係る負債	4,085	4,181
資産除去債務	370	369
P C B廃棄物処理引当金	39	39
その他	44	37
固定負債合計	7,988	12,647
負債合計	32,395	40,658
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,640	14,640
資本剰余金	4,838	4,838
利益剰余金	24,904	24,356
自己株式	△386	△976
株主資本合計	43,997	42,859
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	408	446
繰延ヘッジ損益	5	△119
為替換算調整勘定	1,087	3,502
退職給付に係る調整累計額	2,229	1,938
その他の包括利益累計額合計	3,731	5,768
純資産合計	47,728	48,627
負債純資産合計	80,123	89,286

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	55,838	63,050
売上原価	43,924	51,296
売上総利益	11,914	11,753
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	4,410	4,808
広告宣伝費及び販売促進費	477	554
貸倒引当金繰入額	45	△26
給料手当及び福利費	4,071	4,208
退職給付費用	14	4
旅費交通費及び通信費	229	309
減価償却費	141	306
その他	1,504	1,638
販売費及び一般管理費合計	10,894	11,803
営業利益又は営業損失(△)	1,019	△49
営業外収益		
受取利息	23	19
受取配当金	43	38
持分法による投資利益	113	98
為替差益	124	137
不動産賃貸料	68	68
その他	161	198
営業外収益合計	535	559
営業外費用		
支払利息	24	34
支払補償費	44	18
その他	38	47
営業外費用合計	107	101
経常利益	1,447	409
特別利益		
固定資産売却益	2	6
投資有価証券売却益	201	4
補助金収入	77	91
特別利益合計	281	101
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	117	79
投資有価証券売却損	32	-
投資有価証券評価損	100	-
特別損失合計	250	79
税金等調整前四半期純利益	1,478	431
法人税、住民税及び事業税	219	264
法人税等調整額	375	88
法人税等合計	595	352
四半期純利益	882	78
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	882	78

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	882	78
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△217	38
繰延ヘッジ損益	△67	△124
為替換算調整勘定	762	2,214
退職給付に係る調整額	△291	△290
持分法適用会社に対する持分相当額	99	199
その他の包括利益合計	285	2,036
四半期包括利益	1,168	2,115
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,168	2,115
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書の「第5 経理の状況1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	シューズ 事業	プラスチック 事業	産業資材 事業	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	8,307	26,627	20,903	55,838	—	55,838
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	58	464	523	△523	—
計	8,307	26,686	21,367	56,362	△523	55,838
セグメント利益又は損失 (△)	△494	2,062	1,241	2,809	△1,789	1,019

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△1,789百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	シューズ 事業	プラスチック 事業	産業資材 事業	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	8,403	32,416	22,230	63,050	—	63,050
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	68	490	559	△559	—
計	8,403	32,485	22,720	63,609	△559	63,050
セグメント利益又は損失 (△)	△723	1,860	764	1,901	△1,950	△49

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△1,950百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、防災マーケットのプロモーション先である地域・行政関係へのアプローチでのシナジー創出を図るため、防災・インフラ市場を主なターゲットとして活動してきた開発営業部を、市民の命と暮らしを守り安全・安心な社会を実現することを目的として設置した防災事業部に編入いたしました。

これに伴い、従来「産業資材事業」セグメントに含めておりました開発営業部の「断熱資材(土木関係)」等を、「プラスチック事業」セグメントにおける「防災対策商品」に含めることといたしました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	シューズ事業	プラスチック事業	産業資材事業	
消費財	8,307	1,690	—	9,998
中間財	—	24,937	20,351	45,289
その他	—	—	551	551
顧客との契約から生じる収益	8,307	26,627	20,903	55,838
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	8,307	26,627	20,903	55,838

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	シューズ事業	プラスチック事業	産業資材事業	
消費財	8,403	2,052	—	10,455
中間財	—	30,364	21,601	51,966
その他	—	—	628	628
顧客との契約から生じる収益	8,403	32,416	22,230	63,050
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	8,403	32,416	22,230	63,050